新型コロナウイルス感染症の疫学

石田純郎

新型コロナウイルス感染症の抗体を持った人の比率が、東京都、兵庫県、岡山県で発表されました。それぞれ、6%、3%、1%です。それを根拠に下記の計算をしました。

	人口	抗体のある人	実患者数	症状の出た人の比率	死亡者数	死亡率
東京都	1392 万人	6%、836400 人	4654 人	0.6%	150 人	0.002%
兵庫県	546 万人	3%、163800 人	668 人	0.4%	29 人	0.002%
岡山県	189 万人	1%、 18900 人	22 人	0.1%	0 人	0

これで見えましたね。新型コロナウイルス肺炎が、あまり怖い病気でないことが。

罹った人の内、0.1%から 0.6%しか発症しない。99.4%から 99.9%の人が、不顕性感染。

死亡率はわずか、0.002% 。罹患者 10 万人あたり 2 人。非常に運が悪い人だけ（一人一人には歴然とした理由があるわけで、それはそれぞれの病歴をチェックして考察する必要がある）です。ただ、死亡に至るまで、タイムラグがあるので、実際の死亡比率はこれより数倍、上がるでしょう。それでも罹患者 1 万人あたり 1 人を越すことはない。

抗体がある人が 60%を超えると、集団免疫で、流行が下火になります。

日本政府がすべきことは、現在のような伝染抑制でなく、できるだけ早く、国民の 60%が抗体を持つ状態に持ち込むこと。すなわち、外出自粛は取るべき方策ではないこと示しています。国家経済、小規模事業者の経済が、取り返しがつかないほど疲弊する前に。